

平成29年度内部モニタリング結果を受けての  
平成30年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における平成29年度の内部モニタリング評価結果を受け、平成30年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

リサイクルプラザ			
	平成30年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
資源化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>不燃物に含まれる資源化物の手選別結果は既に満足できる高い数値を示している。そのため、資源化率の向上につながるよう、不燃物の組成割合をはじめとした搬入物検査のデータに基づき分別の改善に向けた検討を行うとともに、啓発活動に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市（豊中市、伊丹市）の不燃ごみの搬入物検査を実施し、内容物の組成分析や適合率等の調査を行い、検査報告をもとに両市の関係部局に対し啓発活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市の不燃ごみの搬入物検査について、計10回実施した。検査結果については概ね適正であったが、可燃物であるプラスチック製品や禁忌品の混入も散見されたため、引き続き、両市関係部局へ市民周知の依頼を行った。</li> </ul>
事故・故障について	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市と連携し、搬入物検査を充実強化するとともに、市民への啓発も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市（豊中市、伊丹市）の不燃ごみとプラスチック製容器包装の搬入物検査を実施し、禁忌品等（特に充電式電池）の混入について検証を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市の不燃ごみとプラスチック製容器包装の搬入物検査を計19回実施し、特に施設火災の原因である充電式電池の混入について調査を実施。検査報告をもって両市関係部局へ、引き続き拠点回収の利用について市民周知の依頼を行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き公益社団法人全国都市清掃会議を通じ、充電式電池の回収ルートの整備を要望していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益社団法人JBRC(Japan Portable Rechargeable Battery Recycling Center)の拠点登録を行い、回収BOXを設置し、充電式電池の回収ルートの整備（拡充）を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益社団法人JBRCの拠点登録を行い、リサイクルプラザ(2F)に充電式電池の回収BOXの設置を行った。</li> </ul>

リサイクルプラザ			
	平成 30 年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災に対する初期対応と施設の損傷低減に向け、消火設備の改善工事を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火炎検知器や消火散水ノズルの増強工事を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火炎検知器や消火散水ノズルの増強工事の結果、復旧にかかる時間の短縮が図られ、火災の影響により生じる処理施設の運転停止時間の低減につながった。</li> </ul>
環境学習・啓発について	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度(2018 年度)から 3 年間の環境学習運営業務を引続き NPO 法人豊中・伊丹環境政策フォーラムに委託し、展望フロア一般開放デーをはじめ、施設見学・出前講座の業務等を担わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第 3 日曜日（10 月は別日程）に展望フロア一般開放デーを実施。</li> <li>施設見学（事前・随時）の対応。</li> <li>小学校やこども園、各種団体等の依頼による出前講座の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展望フロア一般開放デーについては 4,017 人、施設見学者は 9,006 人、小学校やこども園、各種団体等の依頼による出前講座については 88 団体、8,052 人の参加があり、環境学習の取り組みについて一定の効果はあったと考える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習・啓発をさらに効果的に進められるよう、モニタリング体制を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座等のイベント時には、係の職員が立ち会いモニタリングを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市担当部局との合同実施による、出前講座（78 回）すべてにおいてモニタリングを実施した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市の全市立小学校(58 校)の社会科見学の実現に向けて働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習推進会議（4 月）に出席される両市の学校教育課（担当者）に社会科見学の PR を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校（4 年生対象）の社会科見学については、今年度伊丹市 17 校、豊中市 40 校が来場した。</li> </ul>

ごみ焼却施設			
	平成 30 年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
ごみ焼却施設について	<ul style="list-style-type: none"> <li>新ごみ焼却施設開始後の 2 年間に蓄積したデータと旧焼却施設での実績に基づき焼却施設の適正な維持管理による整備を計画的に行うとともに、両市搬入計画及び実績に見合った運転計画を作成・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで蓄積したデータを基に焼却施設の維持・整備を実施。</li> <li>両市搬入計画で年末年始の数値に少し乖離があったため過去 3 年間の実績を考慮して搬入計画の修正を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼却炉の停止に至るような設備や機器の故障もなかった。</li> <li>9 月に台風の影響で大きな計画差が生じたが、それを除けば年間の大きな計画差はなかった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市に対し一層のごみ減量施策を求めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市による搬入物目視検査の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用者の分別意識向上が図れた。</li> </ul>
環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>排ガス・排水のすべての項目において、引続き年間を通して基準値を満たせるように測定値の推移を注視し、適正な運転管理につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排ガス、排水の各測定値については、各測定項目のデータの確認を行い、これまでの推移についても確認を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排ガス、排水のすべての項目において基準値を満たす結果となり、各項目の値の推移についても大きな変化はなかった。</li> </ul>
事故・故障について	<ul style="list-style-type: none"> <li>定常作業も含め、作業前にはミーティングを行い作業手順を確認するとともに、類似作業についても再発防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼時に各係の作業内容を共有するとともに、作業前にはミーティングを行い職員の安全確認を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害は 7 月に定常作業時に 1 件発生した。安定した体勢がとれて作業ができるよう器具の改善を行い、この作業に対して作業方法について再度職員に周知した。</li> </ul>
資源化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>新ごみ焼却施設開始後 2 年間の実績や蓄積したデータを踏まえ、引続き運転計画に見合った送電計画を作成し、高効率で安定した発電量を確保できるよう取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月送電計画と送電実績の突合を行い、計画差の多い箇所の抽出を行い、影響している焼却炉の運転状況の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送電計画と送電実績の突合を行うことにより、計画差が生じている箇所に該当するデータの分析を行い、計画のもととなるデータの修正を行うことで、現状に見合った送電計画を作成することができた。</li> </ul>